

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796000079		
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ津久野		
所在地	堺市堺区神石市之町16番25号 FOCTファーストビル		
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2796000079&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様及び職員の入替わりがほとんどなく、皆様穏やかに暮らしている。ご入居者様一人ひとりを支えるケアを目指している。セラピー犬をフロア内で飼育しており、ご入居者様と触れ合うことでコミュニケーションを図り、癒しにもなっている。同じ建物内に通所介護があり、ご利用されている皆様と一緒にレクレーションを楽しまれ交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣からの入居が多く、住み慣れた地域での暮らしを支援しています。利用者や職員の入替わりが少なく信頼関係が構築されている中、利用者の思いや生活を第一に考えた支援を心がけています。5年を超えて入居されている方が多く、徐々に重度化がみられてきましたが、かかりつけ医との連携が良く、受診毎に健康管理記録をホームのとかかりつけ医の双方が記入することで情報の共有が図られています。家族と医師、全職員が同じ思いを持てるよう話し合いを繰り返し、終末期の利用者にも笑顔がみられ穏やかに過ごされるよう支援しています。フロア内で飼われているセラピー犬が利用者の癒しとなり、散歩などで外に出かける機会が増えることで地域の方々と自然に顔なじみの関係が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠意を以って社会参加の信条」「豊かな人間生活」をサービスに反映させるべく努め、日々利用者の支援を行っている。	法人の理念のもと、地域に密着したサービスを提供していきたいと考え、困難ケースも積極的に受け入れている。事務所に法人の理念を掲示し、入職時の研修や職員全員が持っている職員マニュアルの中にも記載されている。	現在の事業所の思いを独自の理念として明文化されてはいかがでしょうか。また、理念は事務所だけではなくホームの玄関やリビング等にも掲示されると、より意識する機会が増え共有につながるのではないのでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、地域の老人会に参加している。	自治会に入っていないが、老人会から誘いを受け毎月参加している。地蔵盆のお参りに地域の方々と参加したり、併設のデイサービスの利用者との交流がある。また日頃から近所付き合いがあり、犬の散歩でも顔なじみの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういう気持ちはあるが、現在のところ取り組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開催し、議事録を残している。会議では家族、地域住民、民生委員、市の担当者等が参加されており、グループホームでの行事や活動状況、事故・苦情の報告・検討等を行っている。	家族会会長や民生委員、かかりつけ薬剤師、地域包括支援センター職員等が参加する運営推進会議を2カ月に1回開催している。運営状況や医療連携体制等を議題とし、意見交換を行う等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課や堺区地域包括支援センターと連絡を取り合い、堺市の福祉事業の推進に協力している。	市の担当者とは連絡を取り合い、細かな報告を行っている。堺区のグループホーム連絡会に参加し、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止の研修を行い、拘束ゼロを目指した活動を展開中である。現在は、夜間のみ玄関の施錠をしている。	身体拘束廃止について研修を行うとともに職員マニュアルにも明記し取り組んでいる。ホームの玄関やエレベーターにも鍵をかけず利用者の行動を制限しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束禁止・虐待防止の研修を行い、実践している		

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様2名が、後見人すでに就いており、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては誤解のないように説明し、家族様の理解を助けるような措置をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この外部評価でのアンケートや家族会での意見を運営に反映させている。	毎月のホームからの手紙や面会、電話で利用者の様子を伝え、直接話をしたり家族会、アンケートを行い家族からの意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設以来、異動や離職はほとんどなく職員は定着しており、提案を出し易い環境である。	職員の入れ替わりが殆どなく、管理者と職員の信頼関係が構築されており、意見が言いやすく話し合いながら利用者の支援に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を大切にし、働きやすい環境の整備に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・導入研修を全職員が受けており、外部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会を立ち上げ2ヶ月に一度集まって研修など企画、サービスの質の向上をめざし活発に動いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所開始前に事業所併設の通所介護サービスや訪問介護サービスを見学してもらうことができる。見学も随時おこなっており、昼食も一緒にお試しができる。安心・納得した上でりようできるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時より、家族より情報提供や希望されることをお聞きするようにしている。包括や介護保険課につなぎ、また他施設、例えば特別養護老人ホームなどを紹介している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極めるために認定の申請援助や居宅介護支援事業所の紹介などを小まめに行っている。細かなアセスメントをおこない、ご利用者様に必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のできることは、ご自分でしていただき、できない部分をお手伝いするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、蜜に連絡をとりあい、ご利用者様のケアについては、相談や意向を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設されているデイサービスを利用させていただいたり、お試し利用を実施している。	ホームの近隣に住まれていた方や併設のデイサービスを利用していた方が多く、犬の散歩やデイサービスとの交流時等に入居前の馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係作りの可能な方を、料理の配膳や作業にお誘いし、職員と共同作業する中で、関わりを深めてもらえるように、努めている。		

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方の、次の施設を紹介したり、必要に応じて、相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	献立の希望を聞く、行きたい場所を選んでもらうなど、具体的なことでないと、認知症が進行し、大きな捕らえ方は困難になってきている。	毎日の申し送りや記録をもとに職員間で話し合い、個々の利用者の思いを汲み取っている。センター方式及び法人独自のアセスメント用紙を使用し、情報を整理することで職員の情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・環境など、本人の言葉や生活のなかでの会話を聞き取り把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床・就寝・食事に掛かる時間など個人差が開いてきており、入所から5年が経ちADLが低下しており、以前とは関わり方に変化がでてきていることは否めない状況である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用様がよりよく過ごせるようにカンファレンスを定期的に行い、全員のモニタリングを毎月行っており、プランの見直し等に役立てている。週に一度医師の往診時に医師の意見を確認したり、今後の生活に役立てるよう反映している。	介護計画の作成及び見直しの際には、本人や家族の意向を聞いたうえで担当者会議を開き話し合っている。かかりつけ医からは受診ごとに情報をもらっている。また、毎日のケアプランの実施チェックや毎月のモニタリング等を行い現状に合った計画となっているか確認し、必要時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用様様の一日の様子が把握できるよな介護記録になっており、経過記録にも随時記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスにボランティアやイベントがある時は行事に参加している。		

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH以外のかたとの交流を大切にするために民生委員やボランティア、地区の老人会に参加し協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一週間に一度往診があり、2週間に一度は必ず全員が受診されている。体調不良時は早い段階で医師と相談し、連携を取っている	入居時に家族と相談したうえでかかりつけ医を決め、現在は全員がホームのかかりつけ医の診療を受けている。週に1度の往診や訪問看護を受け、健康管理記録を利用し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を導入予定。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	馬場記念病院の地域連携質と協働して、早期退院を実現させている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在ターミナルケアをおこなっている方が2名あり、早期より話し合い家族の同意もいただいている。	重度化したり終末期の利用者の支援について職員間で話し合い、医師や家族とも思いや方針を共有し看取りの支援を行っている。早い段階から家族にホームの方針を説明できるように指針を作成し、実際に終末期の利用者には医療対応方針の申し合わせを書面にし同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救命救急講習を全職員実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年二階おこなっており、非常時の対応マニュアルがある。堺市の危機管理質と連携をとり地域との協力体制を整備している。また食料の備蓄をしている。	年2回の避難訓練のうち1回は消防署立会いのもと1回はホーム独自で行っている。ホームでは防災セットや備蓄を準備している。堺市との連携があり地域との協力体制ができ、近隣の方の災害時の避難場所にもなっている。	

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスの研修で徹底して教育している。	プライバシーに関する研修を行うとともに利用者との関わりの中で排泄時の言葉かけには十分気を配るよう心がけている。利用者自身に気を使わせないよう、また利用者への感謝を言葉にしながらかんげんを守り対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自分で考えることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその日にしたいことをしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは買物で化粧品や服を購入、美容室は来所してもらって本人の好みにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考え、買物や準備・片づけと一緒にしている。誕生日やイベント時は外注して握り寿司などを楽しんでいる。	利用者の得意なことに合わせて、食材を刻んだり食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。職員は同じ食卓に着き会話をしながら、持参した弁当を食べたり食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食お一人ずつ記録しており、排便の記録と関連させながら、その日の体調を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科往診してもらい、口腔ケアを実施している。		

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2	個々の排泄パターンを把握し、日中にはその方に合った時間の間隔でトイレ誘導を行っている。夜間はリハビリパンツを使用しているが、日中は布の下着を着て失敗のないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や一日2度のおやつ時の水分補給、また食物繊維の摂取に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は原則決めているが、入りたい時に入れるように、臨機応変に対応している。	利用者の希望に合わせて曜日を定め、日中の時間帯の希望の時間に入浴できるように支援している。浴槽はヒノキ風呂で木の良い香りがしたり、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の好みを取り入れ、布団やベットを提供し、介護だけの視点ではなく、ご利用者が離臥床しやすいように支援している。ソファでも昼寝ができるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については服薬時に、二名の職員で確認し、誤薬のないようにしている。薬の用法等についてはその都度かかりつけの薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの日課表を作っており、ケアプランにも位置づけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	犬の散歩や買物などそれぞれ外出の機会をもっている。しかし、入居から5年が経ちご利用者様のADLの低下があり、外出が難しくなってきた。	毎日の犬の散歩には利用者も順番に一緒に出かけている。週に1~2回の買い物の外出や月に1回の外食などできるだけ外に出る機会を持てるよう支援している。	

ニチイのほほえみ津久野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方がいたが、すぐに無くし他のご利用者様の部屋からでてきたことがあったため、家族様も持つことを拒否されている。欲しい物を職員と一緒に買物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでもできるように手助けしているが、年齢が高くなるに従い、そのような希望もめっきり減っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は壁面制作等、ご利用者様と毎月制作し季節の花も飾っており、季節感の出るように工夫している。	4階建てのビルの3階部分がホームとなっており、訪問するとセラピー犬が出迎えがある。対面キッチンのある食堂・リビングは家庭的であり利用者の多くは日中リビングで居心地良く過ごされている。セロファンで毎月作られるスタンドグラス様の飾りや花を飾り季節感があるよう工夫されている。また、廊下の窓に向かってソファが置かれており、外を眺めながら寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア一壁面に外出時の写真や、ご利用者様と製作した季節感のある制作物を飾っている。廊下の端にソファを配置し気の合う同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室においてもらうようにしている。	以前から使用していたタンスやソファ等を持ち込んでもらったり、家族の描いた絵や家族の写真を飾り、個々の利用者が安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室移動やトイレに間に合わず失禁することがないように、また食堂まで出て来れるよう、また転倒事故のないように見守りができるように、部屋を臨機応変に提供している。		